

#私はたたかう

透明で公平な政治へ



立憲民主党

The Constitutional
Democratic Party of Japan



2021年10月吉日

立憲民主党 東京都第9区総支部(山岸一生)

〒176-0012 東京都練馬区豊玉北6-18-8

TEL: 03-6676-7318

FAX: 03-6632-4145

e-mail: office@yamagishi-issei.jp

山岸一生
やまがし いっせい

立憲民主党

The Constitutional
Democratic Party of Japan

政治に対する『失望』と『希望』 両方学んだのが、沖縄だった

朝日新聞記者の仕事は大好きだった。

いろんな現場に行って、
お話を伺って、
一緒に怒ったり
一緒に泣いたり
一緒に笑ったりする。
それが何よりも、私には大切だった。



しかし、記者の仕事をしていると、政治の劣化がいやでも見えてくる。

転機を迎えたのは、2013年からの那覇への赴任。
あまりに強引で現場の声を無視する政治。
弱い立場の者に、さらに負担を押し付ける日本。
私は沖縄で、政治への深い失望を感じた。

しかし、そこへ翁長雄志さん（当時の那覇市長。
のち県知事）が先頭に立って、
「この政治はおかしい。みんなで変えよう。」と
声を上げた。
共産党さんから、連合さん、
あるいは自民党の一部の人まで集まって、
「オール沖縄」といううねりを作り上げて、沖縄の
政治を動かした。



「政治には、まだ希望がある」と思った。
違いを乗り越え、手を携えて、
変えることができる。
政治に対する『失望』と『希望』。
両方を学んだのが沖縄だった。

～私が政治家を 志したわけ～

だが私は、再び失望することになる。
その後、東京に帰ってきたのが2015年。
安保法制のさなか、安倍一強の全盛期。
乱暴な政治、強引な政治を目の当たりにした私は、
もう傍観者ではいられない、覚悟を決めた。
新聞記者という、「安全地帯」からものを言うのではなく、
自ら飛び込んで、ともに戦おう。

それが、
政治家・山岸一生としての、
私の原点。



2019年の参院選は、たくさんの方の声をいただいたが、次点で惜敗した。
そしてその後2年近く、コロナ禍の練馬を歩いてきた。
お一人お一人と、街かどでお話を伺ってきた。

商店街で言われた。
「こんな哀しいことを防ぐのが、
あなたたち政治家の仕事じゃなかったの？」
ご近所の商店主の方が、自粛に振り回され、命を絶たれたのだった。

まっとうな政治へ コロナ禍の練馬の街を 歩いて、走って、話を聴いて 今こそ変えたい



今、政治が本来の責任を果たしていない。
「政治とカネ」をめぐる事件も相次いでいる。
混乱し、腐敗した政治では、命と暮らしを守ることはできない。
今こそ変えませんか。

目の前の命を必ず救う。
苦しいときは、ともに支えあう。
隠し事をせず、丁寧に説明する。
まっとうな政治へ、
私は皆さんとえていきたい。

一生の重点政策

子育て・教育

教育支援(授業料や教育環境)
医療体制(安心な医療体制)
子ども省設置



情報公開

透明で公正な社会
「総理大臣記録法」を制定
デジタル民衆主義の確立



コロナ対策

保健所機能強化
医療体制強化
治療薬の開発



住宅政策

公営住宅拡充
家賃補助
エネルギー効率向上(断熱化)



#私があなたの声になる

練馬から国会を変える!未来を創る!

山岸一生キックオフ集会



未来の安心をつくる ～子どもたちが輝く社会へ～

働く親からの声

一福祉・教育政策の課題

[保護者] 光が丘に住み、今、保育所や学童クラブを利用している。全国的に、福祉より経済優先で新自由主義政策が多くなり、この練馬区も、15年前より、委託・民営化が進み、多くの民間事業者に委託されているが、保護者としては十分な説

明もされず、正直、不安。今、コロナ禍で、保護者への説明もないまま、“待機児童解消”的にと、学童クラブの環境もぎゅうぎゅう詰めのような環境で、民間事業者も大変になっている。親として子どもの環境が心配。

[山岸] 自分にはまだ子どもがない。でも、そんなことを言っている場合ではない。子どものいる人もいない人も、広い意味で当事者。当事者意識をもって取り組みたい。

[保護者] 緊急事態宣言下で、子どもたちの教育環境も今後どのようになるのだろうか。子ども・教育政策の充実をお願いしたい。

[山岸] 公教育の立て直し、とりわけ、パブリック分野を縮小してきたことによる行き詰まりから、大きな転換をしていかなくてはならない。子ども食堂の現状も聴きました。本当に、未来の子どもたちのために、しっかりと取り組んでいきます。

保育と介護の現場を体験して

職員さんと一緒に体験学習をさせていただき、子どもの元気、高齢者の笑顔・ユーモアからパワーをもらいました。

この福祉の現場には、社会の課題と活力があること。そして、この福祉現場を支えている職員お一人お一人の環境を支えていくこそ、政治のなすべき第一歩があると感じました。そんな現場に報いるような当たり前のこととなるよう皆さんと頑張っていきたい。



練馬の声を聴く



写真でつづる山岸一生の横顔

[プロフィール]

1981年生まれ、40才。元朝日新聞社記者。

高知県、京都府での勤務を経て、東京本社の政治部で菅直人総理

大臣、野党自民党の谷垣禎一総裁などの「番記者」に。

沖縄県那覇総局に勤務後、再び東京本社政治部へ。

2019年7月、参議院選挙に東京都選挙区から立候補、次点で惜敗。

2019年11月、立憲民主党の衆議院東京都第9区総支部長に就任。

○幼少時代



名前を呼ばれると、必ず満面の笑顔で応え、近所の人に「にこにこ坊や」と呼ばれていた。

高校時代



高校の文化祭にて。ひたすらうどんを作り続けた。(今も料理は得意!)
目立つよりは「縁の下の力持ち」タイプだった。



大学時代

大学時代、人権問題の現場で学ぶゼミ活動に全力投球。ゼミの研修旅行で、フィリピンのスラム街を訪問。このゼミでの経験が、現場を訪れて話を聴き、ともに考えるという一貫した姿勢につながっている。

記者時代。



新聞記者として高知に赴任中、初めてのヘリコプター取材に。本人、やや緊張気味…。



趣味はサイクリング。
沖縄を横断したり、練馬と都心の行き来にも。